

29年1月分 合板工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成29年 1月1日～ 29年1月10日

2. 調査実施方法

全国の合板工場-1に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
1月分の回答企業数は7社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) 国産原木入荷動向 Weight. D. I.

品目		29/1月	29/2月	29/3月
入荷動向	スギ	△ 50.0	40.0	40.0
	ヒノキ	△ 25.0	0.0	0.0
	カラマツ	16.7	40.0	40.0
	トドマツ	33.3	66.7	33.3
消費動向	スギ	16.7	40.0	60.0
	ヒノキ	25.0	25.0	25.0
	カラマツ	0.0	20.0	40.0
	トドマツ	0.0	33.3	33.3
在庫動向	スギ	△ 33.3	0.0	0.0
	ヒノキ	△ 50.0	△ 25.0	△ 25.0
	カラマツ	△ 33.3	0.0	△ 20.0
	トドマツ	33.3	33.3	0.0

・スギ合板原木の入荷は1月の減少が、2月、3月は増加。ヒノキは1月の減少から、2月、3月は横ばい。カラマツ及びトドマツは3ヵ月連続して増加。

・合板原木の消費は一部横ばいがあるものの、総じて3ヵ月連続して増加。

・スギ合板原木の在庫は1月の減少が、2月、3月は横ばい。ヒノキは3ヵ月連続して減少。カラマツは総じて減少。トドマツは1月、2月の増加が、3月は横ばい。

(2) 合板用原木購入価格動向 Weight. D. I.

品目	29/1月	29/2月	29/3月
スギ	0.0	20.0	20.0
ヒノキ	0.0	0.0	0.0
カラマツ	16.7	40.0	40.0
米マツ	50.0	50.0	50.0
北洋カラマツ	66.7	33.3	33.3
その他	50.0	50.0	50.0

・スギ合板原木の購入価格は1月の横ばいが、2月、3月は強含み。ヒノキは3ヵ月連続して横ばい。

・カラマツは強含みで推移。
・米マツ、北洋カラマツ及びその他は、強含みで推移。

モニターからのコメント

(原木荷動き)

・順調に入荷。生産に合わせて消費。在庫はほぼ横ばい。
・カラマツの入荷が困難。カラマツ在庫がなく、厳しい状況へ。
・カラマツ、トドマツは集荷を強めている。スギも2月以降から入荷量を増やす予定。3月から新工場が稼働するので消費量は一気に増える。在庫量は極端に変えずに、消費分を入荷する予定。
・冬場対策で入荷を願うも量集まらず。消費は変わらず。冬場に向け少しづつ在庫増。
・スギ材の入荷が減少、在庫もスギ材の減少が目立つ。
・年明け後スギの伐採が増えるのは1月中旬以降。ヒノキは在庫調整のため制限しての入荷を行う。消費は、1月より2月、2月より3月が増えていく。スギの在庫を増やして行くが、ヒノキは制限する。

(原木価格)

・安定した価格であるが、カラマツは高値張り付きの状態。
・カラマツの取り合いで価格上昇。
・スギは横ばい、カラマツは若干強含み、外材は円安と現地価格、原油価格の上昇で強含み。
・群馬県産カラマツが上昇中。
・1～3月はほぼ横ばい、樹種、径により変動あり。安定供給なくして単価上昇はない。
・原木在庫は増えている。原木相場が下落するなら、購入価格も見直す。

29年1月分 合板工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

4. 調査結果の概要

(1) 生産動向 Weight. D. I.

品目		29/1月	29/2月	29/3月
生産動向	構造用(9mm)	8.3	20.0	20.0
	〃 (12mm)	28.6	50.0	33.3
	〃 (15mm)	0.0	33.3	16.7
	〃 (24mm)	42.9	50.0	50.0
	〃 (28mm)	28.6	50.0	50.0
出荷動向	構造用(9mm)	33.3	40.0	20.0
	〃 (12mm)	28.6	50.0	33.3
	〃 (15mm)	△ 14.3	16.7	16.7
	〃 (24mm)	28.6	50.0	50.0
	〃 (28mm)	28.6	50.0	33.3
在庫動向	構造用(9mm)	0.0	△ 40.0	△ 20.0
	〃 (12mm)	△ 28.6	△ 50.0	△ 33.3
	〃 (15mm)	△ 14.3	△ 16.7	0.0
	〃 (24mm)	△ 28.6	△ 50.0	△ 33.3
	〃 (28mm)	△ 14.3	△ 50.0	△ 33.3

・構造用合板の生産及び出荷は、一部横ばいがあるものの、総じて3ヵ月連続して増加。

・構造用合板の在庫は一部横ばいがあるものの、総じて3ヵ月連続して減少。

(2) 構造用合板出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	29/1月	29/2月	29/3月
構造用(9mm)	50.0	0.0	0.0
〃 (12mm)	71.4	16.7	0.0
〃 (15mm)	57.1	0.0	0.0
〃 (24mm)	57.1	0.0	0.0
〃 (28mm)	57.1	0.0	0.0

・構造用合板の出荷価格は強保合で推移。

モニターからのコメント

(構造用合板の荷動き)

- ・総生産量を増やせないで、9mm, 15mmを減らして、受注残が多い12mm, 24mm, 28mmを増やす。生産した製品はほぼ出荷するので、低水準の在庫量。
- ・1月は休みあり生産は増えず。2月からフル生産で受注残の消化へ。納期の遅れ解消へ。
- ・フル生産、在庫はほとんどない。12mm、厚物の在庫が減少。
- ・少量生産、販売なので変化なし。
- ・1月は休日、メンテナンス等で稼働日数が減少しているも、増産体制は継続。販売計画以上の出荷が継続し、納期に納めるよう努力。在庫は全品種減少。
- ・工場はフル生産が続く。発注状況に合わせての生産。12mm, ネダノンの引合いは強く、生産状況に合わせての出荷となる。在庫は低水準のまま増える状況にない。

(構造用合板の価格)

- ・副資材の値上げにより、1月から製品値上げをする。
- ・1月から値上げ。
- ・12mmは上昇する可能性がある。
- ・変わらず。
- ・1月、価格改正により上昇傾向。
- ・九州と本州の価格差が広がったため、当月より出荷価格を調整。